

# 神女広報

CROSSROADS

vol.15  
2013 Winter

神戸女子大学  
神戸女子大学大学院  
神戸女子短期大学  
神戸女子大学教育センター



## 特集

防災を考える 危機に備えて

- 6 教育研究活動
- 12 大学連携
- 13 学園トピックス
- 16 地域連携
- 18 インフォメーション

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ学園広報誌

学校法人行吉学園

## 防災を考える 危機に備えて

中央防災会議(内閣府)は、平成24年8月29日、南海トラフで発生する地震について新たな被害想定を発表しました。発生時間帯を冬の深夜とした最悪のケースにしたことからその被害想定の数値は衝撃的なものでした。それに対して有識者会議は「正しく恐れてほしい」と要請しています。地道な対策や訓練が「減災」につながることを示唆しています。今後、自治体や企業は、防災対策を進めることになります。行吉学園も地震や津波も含めた危機管理を一層進めます。今回は、防災や危機に備える取組みを紹介します。

### 阪神・淡路大震災を経験した行吉学園の今後の防災への思い 行吉学園 理事長 行吉 誠之



行吉学園 行吉誠之理事長

1995年1月17日午前5時46分、淡路島を震源地とする直下型巨大地震(阪神・淡路大震災)が発生し、6千名を超える犠牲者を出した大惨事となった。本学も三宮学舎が大きな被害を受け、校舎1棟が全壊と認定され取り壊しを余儀なくされた。幸いにして短期大学と本部は1992年にポートアイランドに移転しており、運営に大きな支障は出なかった。しかしながら、発生時は学生の安全確認を最優先し、集まった教職員で手分けし個別に確認作業が行われた。大学で2名の学生が下宿先で犠牲になっていたのが、悲しく無念の報告であった。ポートアイランドの短大・本部、須磨の大学では揺れによる致命的な被害はなく、

新学期は多少の混乱はあったものの平常に授業は進められたと記憶している。

このような大震災は今後数十年間起こらないであろうと思われていた矢先の2011年3月11日、三陸沖を震源地とする巨大震災が発生した。東日本大震災と名付けられた震災は、震源地が海洋であったため巨大津波を引き起こし、2万名近い犠牲者を出す世界でも例を見ない未曾有の大惨事となった。更に、津波による原子力発電所事故を誘発し、その対応をめぐる人災であるとの議論もなされている。今回の犠牲の大半は津波が原因であることから、今後の地震対策は揺れと共に津波対策が大きく取り上げられることになった。予想津波の高さも倍くらいに変更され、国・県をはじめとして市町村、地域、事業所等でその対策の策定が急がれている。本学の学舎は最新の耐震基準を満たしているため、揺れに対する備えはできているといえるが、今回の震災で経験した津波についての対策は万全とはいえない。ポートアイランドキャンパスでは、学生の津波の避難場所としては、学舎の高層階への避難が考えられている。また、ポートアイランドキャンパスには本部があり、重要書類が地下に保管されていることから、津波対策として三宮キャンパスへの移転を行ったところである。

大事なことは、想定できるあらゆる時間帯での震災発生時のパニック状態のなかで、いかに秩序だった避難が行えるかということであり、日頃の訓練と備えの大切さを大いに認識することが必要である。



## 須磨消防署「防災協力事業所」に神戸女子大学(須磨キャンパス)登録

平成24年7月2日(月)付で神戸女子大学は、想定外の災害発生時、その状況下で何らかのできることをする主旨から神戸市須磨消防署「防災協力事業所」に登録しました。

「避難救護場所の提供」と登録証には記されていますが、このことだけに限定・拘束されるわけではありません。

災害連絡員と防災協力事業所の関係を消防署は「はちどりネット」と称しています。「森が燃えて多くの動物が逃げる中、一羽の小さなハチドリだけがくちばしで一滴のしずくを何度も運んでいたという」アンデス地方に伝わる民話から、その名称が生まれたようです。小さな力であっても自らのできることを行うとして、医療機関、交通事業者、建設業、製造業者、大学等が防災協力事業所に登録しています。



守衛室に「はちどりネット」マークを掲示

## 教職員研修会「神戸市の危機管理」を学ぶ

平成24年8月2日(木)神戸女子大学須磨キャンパスにおいて防火・防災管理委員会主催で、神戸市危機管理室震災教訓・発信担当主査 高田 一也氏を講師に招き「神戸市の危機管理」と題して危機管理に関する研修会が開催され、約100名の教職員が参加しました。



神戸市危機管理室  
震災教訓・発信担当係長、  
博士(経済学)、ITストラテジスト  
高田一也氏

高田氏は阪神・淡路大震災の経験から進めてきた神戸市の防災対策計画についての説明と東日本大震災の被害状況と神戸市が行った支援を紹介されました。そして、東日本大震災の教訓を生かして、見直された今後発生する確率の高い東南海・南海地震による津波対策について詳細なデータを提示されました。

災害時の企業の役割についても述べられ、神戸市須磨消防署「防災協力事業所」に登録した神戸女子大学にとって、非常に参考になりました。また、教職員一人ひとりがすぐに実行できる災害時の対策を具体的に教示されました。

ハード面の整備対策を常に見直す重要性に加え、個人が防災に対する危機管理の意識をもつことがいかに大切であるか理解できました。

## 危機管理マニュアル

神戸女子大学・神戸女子短期大学では、キャンパスごとに危機管理マニュアルを順次作成しており、今春には全て完成します。立地条件が異なる二つのキャンパスの特徴を踏まえた内容になります。

このマニュアルは、兵庫県内及び近隣の府県において大規模自然災害の発生が予想される場合において被害を未然に防止し、被害を最小限にとどめるために防災の組織、災害時の具体的な対応方法を定めています。

また、大規模自然災害時の対応以外の学内外における事故・事件などに対する防止や災害時の具体的な対応方法を定めています。

### 南海トラフの解説

東海から四国、九州東部の太平洋側に延びる水深4,000メートル級の海底の溝(トラフ)。日本列島が乗る陸側プレート(岩板)の下にフィリピン海プレートが沈み込む場所で、東海・東南海・南海地震が100~150年間隔で繰り返し発生する。

## 恒例の防災訓練紹介

### 須磨キャンパス消防訓練



放水訓練を行う消防団の学生

平成24年度の消防訓練が平成24年10月4日(木)須磨キャンパスで行われました。

防火・防災管理委員会の計画によるもので、現場確認、非常連絡訓練、非常放送訓練、消火栓・消火器による消火訓練でした。

神戸市須磨消防署から、藤井 茂樹査察担当係長以下5名の消防署員に立会っていただき、神戸女子大学 波田 重熙学長はじめ多数の教職員と学生が参加しました。

一連の通報訓練の後、参加者はA館の噴水前に集合して自衛消防隊初期消火班、消防団員として活躍している2名の学生が消火栓を使って放水訓練を行いました。

「ホースは重く水圧がかかります。筒先をしっかり持って火元に向けてください」との消防署員の方からのアドバイスを受けて、一般の学生も2~3人が一組になってホースを持ち、水圧の強さに驚きながらかわるがわる「的」に向かって放水しました。

藤井査察担当係長の講評では、防火の心得や消火方法とともに「火災になった時は、冷静に火事の場所を119番に連絡することが何より大切で、住所と目印になるものも合わせて通報してください」と話されました。

### ポーアイ4大学連携の防災訓練

第4回目となるポーアイ4大学(注)総合防災訓練(ポーアイ4大学連携推進センター主催)が、平成24年10月15日(月)神戸市水上消防署、兵庫県神戸水上警察署、神戸市水道局中部センターのご協力で行われ、4大学の学生、教職員、地域の住民の方を含め約350名が参加しました。



ヘリコプターで搬送のデモンストレーション



グラウンドに避難した教職員と学生たち

ポートアイランドキャンパスでは、最初に緊急地震速報システムのテスト放送を受けて、学生は2時限目の授業担当教員の誘導に従い、教室から避難経路を確認してグラウンドに避難しました。

その後、学生と教職員は、神戸学院大学へ移動し、逃げ遅れた重傷者を4階から救出し、ヘリコプターで搬送という設定でのデモンストレーションを見学しました。昨年に引き続き津波対策としての警報発令に伴う避難訓練も行われました。

(注)ポーアイ4大学とは、神戸学院大学・神戸女子大学・兵庫医療大学・神戸女子短期大学をいう。

## 地域とともに防災に取り組む

神戸女子大学の学生は消防団員としても活躍中です。神戸市は平成22年度から市消防団条例を改正し、通学地の消防団に入ることが可能になりました。それに伴い、神戸女子大学では主体的に入団に協力することにより、「消防団協力事業所」として認定されています。過去3年間で合計14名の学生（現在12名が在籍）が神戸市須磨消防団に入団しました。

学生団員は、消火訓練や救急講習で地域の方を指導するなど、防災イベントに参加して市民向けの広報活動に取り組んでいます。学内外でも防火意識を高める役割を担っています。

### 今年度も4名の学生が神戸市須磨消防団に入団

平成24年10月4日（木）神戸市須磨消防団に入団した学生への辞令交付式が須磨キャンパスで行われました。

今年度は4名の学生が入団しました。4名の学生は高木 優和須磨消防団長から一人ひとり辞令を手渡され、代表の学生が力強く宣誓をしました。

前田 研史学生部長と高木消防団長から学業と消防団員としての活動を両立して活躍してくださいと励ましの言葉が贈られました。



高木優和消防団長に宣誓書を渡す学生

### 平成24年入団の学生消防団員 初めての活動

平成24年10月14日（日）神戸市須磨区横尾椿谷公園において開催された第13回須磨区防災福祉コミュニティ大会（須磨区防災福祉コミュニティ等連絡会議主催）で新しく消防団になった4名の学生が初めての活動を行いました。

この大会は神戸市須磨区で結成された防災福祉コミュニティ21団体が集まり、身近で起こる災害にあわず対応できるように、実践に即した訓練を実施することにより、住民による自主防災体制の充実と防災意識の高揚を図ることを目的に開催されています。

4名の学生は須磨区内の21地区の防災福祉コミュニティ、須磨消防団、須磨消防署、婦人防災安全委員の方々等、約800名の参加者の前で一人ひとり紹介されました。

消防団員となった学生は、地震と津波を想定した総合訓練を見学し、消防車の機能についての説明を受けたあとスモークマシンで煙が充満したテント、地震体験車「ゆれるん」などで災害時の疑似体験をしました。

毛布と竹竿で簡易担架を作り負傷者を搬送する実習と放水訓練も行い、今後の消防団員としての活動するための基礎的な知識や技術の一端を学びました。

消防団員となった学生には、地域の皆様とのつながりを強め、防災意識を高めていただくための活動が期待されます。



参加者の前で紹介される消防団員の学生



負傷者を搬送する実習

## 科学研究費助成事業に採択された研究の結果報告

科学研究費助成事業に採択された研究のうち、平成23年度内に終了した研究結果について概要を紹介します。

### ドメスティック・バイオレンス被害女性のための シェルターの空間改善に関する研究

—— 上野 勝代(神戸女子大学家政学部 教授) ——

DV(家庭内暴力)に対しては、日本でもその深刻さが認識され、被害者支援が徐々に進んできています。しかし、被害者のシェルター空間については、遅れていると言わざるをえません。そこで、今後のモデルを考えるための先進例としてのデンマークで調査を行いました。その結果、デンマークに比べ日本では特に遅れている女性と子どものための空間と支援が、デンマークでは充実していることがわかりました。この成果は本の形で近く出版する予定です。



### カプサイシン、ジンゲロールによる 高血圧発症・進展予防とその機序

—— 栗原 伸公(神戸女子大学家政学部 教授) ——

神戸女子大学着任後、私は助手や大学院生たちと共に、唐辛子に含まれるカプサイシンや生姜に含まれるジンゲロールを血管内に一定量以上点滴静注すると血圧を上昇させるが、少量の場合血圧を低下させることを機序とともに示しました。それをもとに行った本研究では、その後輩となる院生たちが同じく非常に熱心に実験に取り組んでくれた結果、高血圧モデルラットがこれらを日常的に



少量ずつ摂取すると血圧上昇が抑制され、動脈硬化が緩和される可能性があることを示すことができました。

### 懐かしさを活用した支援

#### — 回想法の実践を通じた生きがいの追及 —

—— 津田 理恵子(神戸女子大学健康福祉学部 准教授) ——

特別養護老人ホームで入所生活を送っている認知症を患った高齢者に、大学の研究室で懐かしい記憶に働きかけ表出された思い出を傾聴・受容・共感する回想法スクールを10ヶ月間開催した結果、生きがい感、認知機能、日常生活動作が改善しました。

また、地域の元気高齢者に大学の研究室で、回想法スクールを開催し終了後も新たに形成された人間関係を活用し、社会参加につなげていくことができました。さらに、都市部と山間部で回想法の効果に差があるのか確認した



結果、居住環境に関わらず生きがい感が上昇することが確認できました。

### 方言文法の視点による

#### 推量表現の変化に関する基礎的研究

—— 橋本 礼子(神戸女子大学文学部 准教授) ——

日本語諸方言の推量表現には種々の形式がありますが、この4年間は古典の「らむ」に由来する形式をもつ新潟、島根(石見)、鹿児島、高知などの方言のうち、特に高知方言の「～ろう」を取り上げ、幕末ごろから現在までの用例の比較や話者への面接調査などによって、形式や意味・用法の変化の傾向を分析しました。こうした研究を通じて、推量表現という狭い範囲ではありますが、日本語の変化傾向を見極めたいと考えています。



※研究内容の詳細は独立行政法人日本学術振興会ホームページの科学研究費助成事業をご覧ください。

## 大学院情報(論文の概要)

### 平成23年度博士学位授与者 博士論文概要

平成24年3月15日(木)に渡部 典子氏に博士(日本史学)の学位が授与されました。

<課程博士> 渡部 典子(神戸女子大学大学院文学研究科 日本史学専攻へ提出 主査:川森 博司教授)  
論文題目「造り物行事の民俗学的研究 —法勝寺一式飾りの変容過程を中心に—」

本論文は、近世後期から現在に至るまでの造り物の変容過程と、伝承地域における造り物行事の継続理由を考察したものである。造り物研究には、二つの視点が生じていると考える。一つは、造り物の系譜を見出す視点、すなわち文化史的な考察である。そして、もう一つは、フィールドワークを重視する現場論的な考察である。

研究対象とした法勝寺一式飾りは、近世後期の造り物の系譜を見出すことができる造り物行事である。そこで、聞き取りと参与観察を主な調査方法とする現場論的な考察を主軸としながら、近世後期からの造り物の系譜が継続してきた理由と伝承過程で生じた変化を考察した。変化の面については高度経済成長期以降に注目し、担い手にとっての造り物行事の存在意義を明らかにした。つまり、継続と変化の両側面から造り物行事を考察することで、文化史的な考察と現場論的な考察の統合を試みた研究を行ったものである。



## 活躍する卒業生紹介

### 宮本 ひとみ氏 平成24年度の日本学術振興会 特別研究員(PD)に採用される



宮本ひとみ氏 博士(生活造形学)

平成22年3月に神戸女子大学大学院 家政学研究科 生活造形学専攻の博士後期課程を修了した宮本 ひとみ氏が、平成24年度の日本学術振興会 特別研究員(PD/採用区分で大学院博士課程修了者等を対象とする)に採用されました。

「特別研究員制度」とは、日本学術振興会が我が国トップクラスの優れた若手研究者に対して、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図る制度です。

平成24年度は、農学領域 279件の申請の中から宮本氏の研究を含め43件が採用されました。

私の研究はセルロースに関するものです。セルロースとは、植物の細胞壁に存在する多糖で、地球上で最も多く生産されるバイオマス(注)です。デザートとして親しまれているナタデココもセルロースで構成されています。

私は、博士(生活造形学)を取得後、アメリカのニューヨーク州にあるコーネル大学(Cornell University Department of Food Science)にて博士研究員として2年間研究を行いました。アメリカでは、石油の枯渇問題に対して、セルロースからバイオエタノールを効率よく生産するという、アメリカ農務省を中心としたプロジェクトが行われています。私は、このチームの一員としてコンピュータシミュレーションを用いて、セルロースの構造を中心に研究を行いました。

平成24年4月より、日本学術振興会 特別研究員(PD)として採用され、横浜国立大学工学研究院にて「水酸化ナトリウム溶解法から再生したセルロースの新しい食材領域を目指した相互作用の解明とセルロースの構造制御の方法論」を明らかにするための研究を進めています。



データ解析を行う宮本氏

(注)生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」をバイオマスと呼ぶ。

#### 宮本氏の博士論文題目

『Structure and properties of cellulose blends prepared from aqueous sodium hydroxide solutions, and structural formation of cellulose from its solution』(水酸化ナトリウム水溶液から調製したセルロース複合体の構造と特性、及びセルロースの構造形成機構に関する研究)



## 古典芸能研究センター 新収文庫の紹介



神戸女子大学古典芸能研究センターは、この度、新たなコレクションを所蔵しました。

- 1 伊藤正義文庫
- 2 かしら文庫
- 3 志水(しすい)文庫

### 1. 伊藤正義文庫

平成22年3月に本学におさめられた伊藤正義文庫は、初代古典芸能研究センター長 故伊藤 正義本学名誉教授(平成4~15年度在職、平成21年12月2日没)の旧蔵書です。能楽研究および中世文学研究の第一人者であった旧蔵者が、生涯を通じて収集した書籍と資料は、能楽だけに留まらず、日本の中世という時代を見渡すことができる文学・思想・歴史などの資料も含まれています。

なお、この文庫に含まれる能狂言番組については、その一部を「古典芸能研究センター蔵能番組データベース」として昨年の春公開しました。



#### 伊藤正義文庫内容

- ・和本 約2,400冊 能狂言番組 約1,750枚
- ・洋装本 約4,500冊
- ・雑誌 約11,540冊
- ・展示図録 約570冊
- ・プログラム等上演資料 約550冊
- ・その他(複写資料(写真・フィルムを含む)・録音録画資料・調査資料)



### 2. かしら文庫

平成24年6月に本学におさめられたかしら文庫は、名古屋在住の人形芸能史研究所所長 加納 克己先生が収集された、日本各地の人形浄瑠璃や人形の首(かしら)に関する資料です。その多くは、人形に関する論文や報告書ですが、中には加納先生が撮影された人形の首の写真や映像などもあります。喜多文庫同様のデータベース構築に向けての作業をこれから進めていく予定です。

### 3. 志水(しすい)文庫

平成24年9月に本学におさめられた志水文庫は、本学名誉教授信多 純一先生(平成7~15年度在職)の旧蔵書です。近世演劇および近世文学研究の第一人者である旧蔵者が収集した書籍は、浄瑠璃・歌舞伎などの近世演劇関連書、狂歌本・狂歌短冊、仏書、神道仏教版画など幅広い内容を持ち、この志水文庫にしか現存しないような貴重な本が多く含まれています。現在は、一日も早くその全容を示す事ができるように整理を進めているところです。



#### 志水文庫内容

- ・和本 約2,600点
- ・洋装本 約5,200冊
- ・雑誌 約3,900冊
- ・展示図録 約650冊
- ・プログラム等上演資料 約120冊
- ・その他(複写資料(写真・フィルムを含む)・録音録画資料・調査資料・人形等)



## 新収文庫公開事業

神戸女子大学古典芸能研究センターでは、新収文庫の公開を記念してさまざまな催しを行いました。

### 2012年第3回常設展

#### かしら文庫・志水文庫の人形

期間：2012年9月10日(月)～12月28日(金)

場所：古典芸能研究センター閲覧室内

「かしら文庫」と「志水文庫」から、珍しい一人遣いの人形や海外の人形劇に使われた人形とその周辺資料を展示しました。



### 古典芸能研究センター稀書展示

#### —伊藤正義文庫・志水文庫を中心に—

期間：2012年11月19日(月)～12月2日(日)

場所：神戸女子大学教育センター5階 第2講義室

「伊藤正義文庫」からは能楽関係や中世文学の貴重書を、「志水文庫」からは浄瑠璃・歌舞伎関係資料や狂歌本などの貴重書を展示しました。



### オープンカレッジ秋期講座

#### 古典芸能研究センター「かしら文庫」

#### 新収記念特別講座

#### 「日本の人形浄瑠璃」

期間：2012年11月5日～12月17日(毎週月曜全7回)

場所：神戸女子大学教育センター5階 特別講義室

- 人形浄瑠璃の特色と魅力  
山田 和人(同志社大学教授)
- 今に残る各地の古浄瑠璃系人形  
和田 修(早稲田大学准教授)
- 人形かしら研究の最前線  
——かしらと画証  
加納 克己(人形芸能史研究所所長)
- 人形浄瑠璃文楽の現状  
桜井 弘(国立文楽劇場支配人)
- 人形浄瑠璃の成立——能操りから浄瑠璃操りへ  
横 記代美(神戸女子大学大学院研究生)
- 人形浄瑠璃の展開——古浄瑠璃から近松へ  
川端 咲子(神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員)
- 人形浄瑠璃のドラマ作法——「戻し」の趣向  
阪口 弘之(神戸女子大学古典芸能研究センター長)



日本の人形浄瑠璃の魅力や、歴史・芸態の拡がり・作品内容などにわたって、多彩な講師陣に縦横に語ってもらいました。

### 稀書展示記念講演

日時：2012年11月23日(金) 13時半～16時半

場所：神戸女子大学教育センター5階 特別講義室

- 「清盛物語」の構想  
阪口 弘之(神戸女子大学古典芸能研究センター長)
- 江戸文化再考  
中野 三敏(九州大学名誉教授)
- 近松研究の限界  
鳥越 文蔵(早稲田大学名誉教授、元早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長)

稀書展示に併せて開催された講演会では、信多先生に親交の深い先生方による三者三様の講演があり、参加者からも好評を得ることができました。





## 国際交流

### 交流年表

(協定校等)

|       |                      |       |                           |
|-------|----------------------|-------|---------------------------|
| 1983年 | ハワイ大学(米国)            | 2007年 | チェンデラワシ大学(インドネシア)         |
| 1993年 | ケント大学(英国)            | 2010年 | ウダヤナ大学(インドネシア)            |
| 1997年 | フライブルク大学(独国)         | 2010年 | 西安工程大学(中国)                |
| 2000年 | 華南師範大学(中国)           | 2010年 | カセサート大学(タイ)               |
| 2006年 | ガジャマダ大学(インドネシア)      | 2010年 | 高麗大学(韓国)                  |
| 2006年 | オークランド工科大学(ニュージーランド) | 2011年 | チェンマイ大学(タイ)               |
| 2006年 | ピッツァー大学(米国)          | 2011年 | カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国) |
|       |                      | 2012年 | アイルランガ大学(インドネシア)          |

## オックスブリッジ英語サマースクール2012

オックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生が組織するOxbridge Summer Camps Abroad(OSCA)の学生2名を講師としたオックスブリッジ英語サマースクールが2012年7月23日(月)～8月4日(土)に須磨キャンパスで実施されました。今年度はケンブリッジ大学からドミニク・ジャクソン コール(Dominik Jackson-Cole)さんとフィリッパ・ベインズ(Philippa Baines)さんを迎え、神戸女子大学の学生21名が参加しました。

授業は全て英語で行われました。2名の講師は日常生活に密着した話題を教材に取り入れ、ファッションショーや学生自ら作ったストーリーを演じて映像におさめるといった実技を伴う授業など、英語を使いながら楽しく学べるように工夫してくださいました。

また、授業以外でも須磨海浜水族園や花火大会に学生たちと一緒に出かけ、交流を深めました。

参加学生からは、もっと授業を受けたかったという声が多く、大変好評でした。



ドミニクさんは得意のサルサを学生に指導しました



天候を話題にしたドミニクさんの授業の様子



コミュニケーションが弾むように対面形式でのフィリッパさんの授業

## 留学生紹介

個人情報のためWEBでは掲載しておりません。

## オレロップ体育アカデミー留学報告 デンマーク王国より

神戸女子大学文学部 教育学科の4年生の新家 綾さんが、2012年8月12日～12月16日までの間、デンマーク王国スヴェンボー市のオレロップ体育アカデミーに奨学生として留学しました。

このスカラシップ(奨学金)は、2010年10月に同校のデンマーク体操のエリートチームが演技発表及び体験講習会で神戸女子大学を訪れた際にウフェ・ストランディ(Uffe Strandby)校長が波田 重熙学長に申し出られたものです。

奨学生に選ばれた新家さんは、3歳からクラシックバレエを習い、大学生になるとデンマーク体操部にも入部し、身体表現活動を今日まで続けてきました。デンマークへの研修旅行にも2回参加しました。初めての研修旅行の時に、本場のデンマーク体操のレベルの高さを実感し、さらに高度で幅広い技術を身につけたいという思いがありました。この度、夢がかなって留学することができました。

新家さんは、卒業論文のテーマにダンス教育の必要性とその手法について研究することにしていました。ダンス教育は、体力と自己表現力の向上に加えコミュニケーション能力の向上にも有効であると捉え、デンマーク体操は舞踊と区別しがたいことから、オレロップ体育アカデミーでのダンス教育の位置づけ、デンマークの社会システムの中での身体活動の実情について調査ができました。

授業では、様々な国籍の学生と一緒にモダンダンス、バレエ、ヒップホップのレッスンを通して、コミュニケーションのとり方や自己表現の大切さを学び、自分たちの創作作品を地域や学校の仲間の前で発表しました。また、インターナショナル・ディのワークショップではデンマーク人の友達に日本語を教える機会もいただくなど、大変充実した留学期間が送れました。

約4ヶ月間のデンマークでの生活は、新家さんにとって自分の思考を相手に伝えるためのトータルな手法を身につけ、デンマークの文化にも触れることができた貴重な留学体験となりました。



オレロップ体育アカデミーの中庭



デンマーク体操部顧問、卒業論文指導教員の青山美津子教授と奨学生採用通知を持つ笑顔の新家綾さん



授業風景



平仮名で名前を書いてもらったワークショップ



Odenseにて他の留学生と記念撮影

※オレロップ体育アカデミー：フン島南部のスヴェンボーにある体育系フォルケホイスコーレ(高等国民学校)の伝統校。ニルス・ブック(Niels Bukh)が1920年に設立した。

## 平成24年度 文部科学省大学間連携共同教育推進事業に採択される

### 取組名称「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」

#### 連携機関

|          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 兵庫教育大学   | 兵庫県立大学   | 神戸学院大学    |
| 神戸親和女子大学 | 武庫川女子大学  | 神戸女子大学    |
| 兵庫県教育委員会 | 神戸市教育委員会 | 日本教職大学院協会 |

#### 1.事業の目的と概要

文部科学省の平成24年度 大学間連携共同教育推進事業に兵庫教育大学が代表校となり応募した取組「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」が採択されました。153件の申請があり49件選定されたなかのひとつです。

この事業は国公私立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組の中から、達成目標が明確で高い成果が見込まれる取組が選定されました。

#### 2.「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」の概要



平成24年11月16日に実施された「兵庫県教員養成高度化システムモデル開発会議」の様子

教員養成機能の高度化を推進するとともに、地域の教育の質の向上を図るため、大学院に教職課程をもつ兵庫県内の上記の6大学と教育委員会等がそれぞれの実績、特色、資源と開放性教員養成(注)の利点を生かして、国公私立の大学連携による相互補完と協働により高度な実践的指導力を養成する「兵庫モデル」を構築することを目指します。

「兵庫モデル」は日本教職大学院協会を通して全国に発信するとともに学士課程と大学院の6年間を通した教職課程のカリキュラムや初任者研修等の内容をふまえた授業科目の共同開発、初任者研修等の研修内容の改善・充実に取り組みます。



会議で発言する波田重熙学長

(注)第二次世界大戦以前の師範学校を中心とした、ほぼ独占的な職業教育的教員養成のあり方が軍国主義教育へと繋がったことを反省し、戦後、大学での教養と専門の高度な学習をふまえて教員の資質の多様化をはかる養成を行うこととなり、多くの大学で教職課程を開設。所定の単位をおさめれば教員免許状が取得できるようになった。これを戦前の「閉鎖的」教員養成に対比させて、「開放性」教員養成という。

#### 3.大学間連携共同教育推進事業における神戸女子大学の役割と期待するもの

グローバル化など社会の急速な進展の中で、中央教育審議会が教員の実践的指導力の育成強化がとくに重要と考え、教員養成を修士レベル化し高度職業人として位置づけるという教員養成の改革を昨年8月にまとめました。神戸女子大学はそれ以前から、教員養成改革の動きに呼応して、本学の教員養成のあり方について議論を重ねていました。今回兵庫教育大学を代表校として、本学を含む県内の教員養成を行っている大学と県・市の教育委員会とが連携・協働する事業が「大学間連携共同教育推進事業」に採択されたことは、教員養成を大学運営の重要な柱に据えている本学にとって、飛躍のための大きなチャンスが巡ってきたと捉えるべきです。事業の中心となる「教育実習総合センター(仮称)」を通じて、本学の特色・資源を活かした教員養成の高度化と質保証システムの構築を積極的に進めることが重要であると考えます。

神戸女子大学 学長 波田 重熙

## 平家物語ゆかりの須磨の地より…史学科 学園祭「コスモス祭」でのイベント

平成24年11月17日(土)・11月18日(日)に神戸女子大学文学部 史学科では平家物語ゆかりの地でもある須磨キャンパスの学園祭「コスモス祭」で二つの催し物を行いました。

### 「平家なう」史学科 拓本展

史学科では学芸員の資格を取得できます。学芸員の資格に必要な科目、博物館実習(寺沢 知子教授担当)で行う実習のひとつとして毎年テーマを決めて拓本を採り学園祭で展示しています。平成24年の学園祭「コスモス祭」では、平家ゆかりの史跡を主にした拓本展「平家なう！ーモノクロで甦る世界ー」と題した拓本展を開催しました。

博物館実習を履修している学生は、夏休みにテーマになっている史跡を分担して手作りの拓墨(たくぼく)を使い拓本を採りました。展示の拓本のキャプションは来場者にわかりやすいように学生各自で工夫をしました。兵庫県内の平家ゆかりの史跡を探すだけでなく、自分の出身地でも



『すみあ〜と』

平家ゆかりの史跡はないか調べその拓本の展示も行いました。

来場者が拓本の体験ができるコーナーと過去の拓本展の記録誌である博物館学芸員実習記録『すみあ〜と』の閲覧コーナーも設けました。初日はあいにくの雨となりましたが、2日間の拓本展は多くの来場者を迎え賑わいました。



拓本を採る学生



展示された拓本



拓本展の準備(左が寺沢知子教授)



拓本展の様子



来場者の拓本体験を指導

### 神戸女子大学史学会大会 公開講演 「平氏と日宋貿易!??」

平成24年11月17日(土)に神戸女子大学史学会主催による公開講演会が開かれました。

神戸女子大学史学会は歴史学研究的の向上と交流を目的に神戸女子大学の史学科の教員、大学院生、学部生および卒業生で構成されています。昭和55年に結成されました。

毎年、学園祭に合わせて総会を開き公開の講演会を行っています。平成24年は平家にちなんだテーマ「平氏と日宋貿易!??」の演題で山内 晋次准教授が90分にわたり講演しました。82名の出席者は平氏と日宋貿易のかかわりについての新しい見解に熱心に耳をかたむけました。



山内晋次准教授



講演会の様子

## ポートアイランドキャンパス 改修新装オープンのお知らせ



開放感のあるガラスサッシを使用



ゆったりとした学生のスペース

ポートアイランドキャンパスのキャリアサポートセンター、教職支援センター、保健室は、移転を伴う改修工事が終了し、平成24年9月から新しいスペースで業務を開始しました。

教職支援センターは平成23年4月にポートアイランドキャンパスA館1階に仮のスペースで開設しました。また、キャリアサポートセンターは、手狭なスペースで業務を行ってきました。この度、A館1階を改修し、キャリアサポートセンターと教職支援センターとが共通のスペースに設けられました。

ポートアイランドキャンパスA館の玄関を入ってすぐの便利な場所に移転したために学生が利用しやすくなりました。就職情報の資料の閲覧や書類作成をゆったりできるようになり、学生同士の情報交換も活発に行えるようになりました。また、パソコンでの検索、職員への相談もしやすくなりました。

明るいスペースには、資料コーナー、閲覧コーナー、面談室も設けられました。

両センターが同じ部屋になったことで、さらに連携し、一層充実した学生支援を行っています。



(上)情報交換する学生 (下)学生相談室

保健室も広くなり、新たに相談スペースを設置し教職員の健康診断や学医による健康相談に使用しています。ベッド数も増えポートアイランドキャンパス内でもっとも静かな場所に移転したことで、より安らげる空間になりました。



ベッド数も増え、機能的になった保健室

## 総合生活学科 新講座が開講される…美しさの追求

神戸女子短期大学総合生活学科は、現代の生活の多様化を受け、衣食住はもとより、生活全般にかかわる課題を総合的に学ぶことができる学科です。学科では、実習を中心とした授業が多く開講されており、時代を先取りしていこうと新しい価値感覚を求めて変化を続けています。

若い世代が興味をもち、学生の可能性をさらに広げられる学科のカリキュラムの充実を図ることを目的に、今年度はネイルアート演習が開講されました。平成20年度入学生から既に関講されているメイクアップ関連の科目とともに、美の多様性を追求しながらも場に応じたみだしなみの知識と技術を学ぶ授業の紹介をします。

### ■■ ネイルアート演習(久野 麻衣 講師担当) ■■

健康で清潔な指先を育てるための正しい知識と技術を学び、基本のケアを理解したうえで、社会に通用するネイルアートを学びます。ネイルの基礎理論の講義と技術を学ぶ授業が交互に進められます。

基礎理論では、爪の病気、色彩理論、消毒法などを学びます。実技では、学生同士が互いの爪で練習する「相モデル」の形態でネイルアートやカラーリングの技術を習得します。

少人数での授業が行われるため、受講生は久野講師の手本のカラーリング技術を目の前で見ることができ、懇切丁寧な指導のもと熱心にお互いの爪でカラーリングの実習をしました。緊張しながら集中して細かい作業を進めていくため、完成したときには、ほっとした笑顔が毎回こぼれました。



一人ひとりに丁寧に指導する久野麻衣講師



カラーリングの作業



完成したフレンチデザイン(ボーダー)

### ■■ メイクアップ演習(遠藤 瑞穂 講師担当) ■■

メイクアップは自分の潜在意識の活性化と将来の夢の実現につながる心のコミュニケーションのツールとして捉えます。

授業では、対人認知、コミュニケーション、スキンケア知識、メイクアップ技術をロールプレイやデモンストレーションを通して学び、また、肌タイプや美しさの基準、理想の肌を保つための日常生活・習慣についての講義もあります。

そして、なりたい自分を意識することや自己を客観的に見ることによって、自分を美しく実現する手段としてメイクアップやスキンケアの正しい技術や肌についての知識を身につけることができます。

遠藤講師のパワーポイントを使った講義をおりまぜて、マネキンを使ったメイクアップのテクニックを実演される授業は理解しやすく、すぐに役立つ知識が得られて学生に大変好評でした。



遠藤瑞穂講師のマネキンを使った実演



真剣な表情で鏡に向かう学生

## 「ふれあい給食」…神戸市須磨区との地域連携のはじまり



波田重熙学長の挨拶

平成24年10月16日(火)に開催された第6回「ふれあい給食」(注)は、神戸市須磨区高倉台にお住まいの参加者とNPO法人「輝(かがやき)たかくら台」の皆様、須磨区役所から3名の方においでいただき、ボランティア学生と教職員の総勢38名で賑やかに開催されました。

神戸女子大学は、平成18年に神戸市須磨区と地域協定を結び、まちづくりの推進、地域福祉の向上、地域の安全安心の推進を相互に連携して協力しています。「ふれあい給食」はその協定を結ぶ先駆けになった行事のひとつです。

「ふれあい給食」は参加の皆様の合唱ではじまります。この日も「輝たかくら台」理事長の玉森様は様のリードで「もみじ」や「里の秋」などの懐かしい歌が歌われました。

昼食タイムは、談笑しながら秋の味覚満載の給食を召しあがっていただきました。

昼食後のふれあい交流では手話部の手話コーラスを楽しめました。最後は手話部の手ほどきで全員が「幸せ運べるように」と「犬のおまわりさん」を手話コーラスしました。

高倉台の皆様は「ふれあい給食」の開催を毎回楽しみにしておられます。

(注)「ふれあい給食」は、高倉台団地に住む65歳以上の独り暮らし高齢者(これに準ずる世帯含む)を対象とする給食会。「神戸女子大学プロジェクトコスモス」とNPO法人「輝たかくら台」の協同で、年間10回実施している。給食の配膳などをするボランティア学生、各クラブ、学生課、施設課、馬淵商事の協力で開催され、毎回30数名が参加される。学生や教職員が地域の高齢者との交流を図り、引きこもり予防や健康づくりに貢献できるようにNPO法人「輝たかくら台」の皆様と両輪で活動を行っている。



(右から)須磨区長 井上隆文氏 まちづくり課長 小野知哉氏  
地域支援担当課長 吉村文秀氏のご挨拶



季節にちなんだ歌や懐かしい歌の合唱



全員で手話コーラス

## V-net 神戸市立医療センター中央市民病院小児科病棟での交流

平成24年10月31日(水)に神戸女子短期大学のクラブ、V-net(注1)(顧問:食物栄養学科 今本美幸准教授)の学生が神戸市立医療センター中央市民病院の小児科病棟を訪れ、入院している子どもたちに手作りの行事食カード(注2)をプレゼントしました。

以前からV-netは小児科で病棟支援を行ってきました。その活動のひとつとして平成23年度より行事食カードを作成しています。

季節毎の行事に合わせて贈るカード。病院スタッフからご指導いただき、冬はクリスマス、春は節分、夏には暑中見舞いと、様々なカードを作成します。10月は「ハロウィン」カードを38枚作成しました。

当日は、仮装した9名の学生が賑やかなハロウィンメドレーにあわせて入室、子ども一人ひとりにカードと夕食を渡し、「いただきますの歌」を一緒に歌いました。

このような学生との交流は、入院生活をおくる子どもたちにとって楽しいひと時となっています。

(注1) V-netとは、阪神・淡路大震災を機に発足した管理栄養士・栄養士養成施設のボランティア・ネットワーク。現在は学校公式クラブとして様々な活動の幅を広げている。詳細は神戸女子短期大学ホームページの学園生活ページ内にあるクラブ活動をご覧ください。

(注2) 病院では、行事にあわせた料理に添えるクリーティングカードを行事食カードという。



(上)作成の様子(下)完成したカード



(左、中)病棟でのイベントの様子  
子どもから素敵な笑顔をいただきました  
(右)集合写真



## 第25回「月見の宴」



小雨の中、限られたスペースでの熱演



齊山美津子教授(右から3番目)と  
「伝統学校ダンスグループ」のメンバー

平成24年9月29日(土)に神戸女子大学と「キャンパス・パーク(CP)連携」(注1)を結んでいる神戸市立須磨離宮公園で、第25回「月見の宴」に文学部教育学科の齊山 美津子教授とデンマーク体操部のOGと有志の部員の合計6名で特別に結成された「伝統学校ダンスグループ」が出演しました。当日は台風17号接近のため午後から小雨が降り始め中秋の名月は残念ながら見るできませんでした。

披露したのは、「青葉の笛」「荒城の月」の2曲で日本の学校のダンス教育に功績のあった戸倉ハル(注2)の創作ダンスです。齊山教授は、平家物語にちなんだ「青葉の笛」の美しさの中に、ものあわれを感じさせるメロディーに須磨の海岸の波を表現した振り付けをアレンジしました。特設ステージにはテントが立てられ、その下の限られたスペースでの演技となりましたが、傘をさしてみてくださった満員の客席から暖かい拍手が贈られました。

齊山教授の呼びかけに、「去年もこの舞台で踊った。もう一度参加したい」「先輩のステージをみて自分も踊りたい」といった理由で集まった学生は、夏休みのデンマーク体操部の合宿から練習を始め当日を迎えました。ブルーの衣装も自分たちで作りました。

学生たちはデンマーク体操の躍動する動きとは異なり、この作品でゆったりと流れるように美しく踊ることを学び、様々なジャンルのパフォーマンスが披露されるステージで自分たちの演技を沢山の方にみていただいたことに感謝するとともに、新たな良い体験ができました。

(注1) 神戸女子大学と神戸市立須磨離宮公園は、平成18年12月に協定を結び、隣接する地理的条件を生かし、本学の教職員と学生が離宮公園を教育・研究の場として使用を承認されている。

(注2) 戸倉ハル：(明治29年～昭和43年)ダンス、女子体育指導者として大正・昭和期に活躍した体育教育者。「ダンスは身体の作文」を持論に学校体育ダンスの普及に貢献した。東京女高師教員養成所研究科卒。高知県立師範学校教諭、東京府立第六高等女学校教諭を経て東京女子高等師範学校助教授、教授、お茶ノ水女子大学助教授、教授、日本女子体育大学教授を歴任。また、日本女子体育連盟を結成、会長を務めた。



## 学 園 からのお知らせ

### ○学生の活躍

#### ①「ニュータウン半世紀展—千里発・DREAM—」学生作製の団地模型が展示される

平成24年10月13日(土)～11月25日(日)に大阪、千里ニュータウンのまちびらき50年を記念して吹田市立博物館で開催された「ニュータウン半世紀展—千里発・DREAM—」で、神戸女子大学家政学部 家政学科の梶木 典子准教授のゼミ生3年生、4年生と大学院生、家政学科有志学生の約30名が作製した50年前の千里ニュータウンの暮らしを再現した団地模型が展示されました。



展示会場で学生と住宅模型

#### ②東日本大震災復興へ願いを込めて・・・手作り裁縫箱を送る

平成24年11月6日(火)に神戸女子大学家政学部 家政学科の上野 勝代教授のゼミ生4年生7名が手作りの裁縫箱17個を東日本大震災の被災地、岩手県陸前高田市子友町三日市の仮設住宅にお住まいの方に贈りました。

上野教授が、昨年送った「かまぼこ板表札」の礼状をいただいた仮設住宅を訪問した際に、偶然「裁ちばさみや物差しが入る大きさの裁縫箱があったらいいね」という話をきき、ゼミの学生が手作りのカルトナージュ(箱を厚紙で組み立て、美しい布や紙を覆って作る手芸)の製法で裁縫箱を作りました。阪神・淡路大震災の被災地兵庫県からの復興への思いを表すために西脇市の播州織の布を使っています。



裁縫箱を作った上野勝代教授と学生

#### ③『KOBE“にさんがろく”PROJECT』最優秀賞受賞

神戸市は、神戸産の農水産物をトータルにPRするために、市内の若者・企業・農漁業者の三者連携による新たな取組み『KOBE“にさんがろく”PROJECT』を行っています。このプロジェクトに神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の田中 紀子教授のゼミ生3年生、4年生と大学院生合計19名が参加し活動してきました。この度、平成24年11月28日(水)の審査会で、4年生9名の提案した神戸産の農水産物を使った「栄養満点☆神戸ふりかけ」が最優秀賞(市長賞)を受賞しました。



賞状と副賞を手に、記念撮影

### ○環境大臣表彰の受賞について

平成24年7月10日(火)に環境省において神戸女子大学 波田 重熙学長は温泉関係功労者表彰(環境大臣)を受けました。

波田学長は平成8年から15年以上にわたり、兵庫県自然環境保全審議会及び兵庫県環境審議会温泉部会において、審議の中心的な役割を果たし、取りまとめに尽力するなど、温泉行政の推進に貢献があったことによるものです。

### ○文部科学大臣表彰の受賞について

平成24年11月15日(木)に文部科学省において神戸女子大学 波田 重熙学長は地域文化功労表彰(文部科学大臣)を受けました。

永年にわたり兵庫県文化財保護審議委員会の要職にあつて、地域の文化財保護に貢献したことによるものです。



### ○平成24年秋の叙勲受章について

政府は、平成24年11月3日(土)付けで、秋の叙勲受章者を発表しました。行吉学園関係では次の方が受章されました。

瑞宝小綬章 林田 慎之助 神戸女子大学名誉教授

### ○神戸女子大学附属高倉台幼稚園創立40周年

平成24年11月3日(土)に神戸女子大学附属高倉台幼稚園で創立40周年のお祝いの会が開催されました。高倉台幼稚園は、昭和48年に地域への貢献と神戸女子大学の幼児教育実習施設として開園しました。平成24年度は、251名の園児が在籍しています。

### ○兵庫県私立幼稚園協会の感謝状を贈呈される

平成24年11月7日(水)にホテルオークラ神戸において、社団法人兵庫県私立幼稚園協会創立70周年記念式典で神戸女子大学附属高倉台幼稚園に幼児教育の振興発展に大きな貢献があったとして兵庫県行事から感謝状が授与されました。



感謝状を手にする小林美佐子園長(中央)と行吉誠之理事長(右)と波田重熙学長

## 行事日程

### 2月

|    |   |                     |
|----|---|---------------------|
| 4  | 月 | <大学>後期授業終了          |
| 8  | 金 | <短大>後期定期試験・補講期間終了   |
| 11 | 月 | 建国記念の日              |
| 19 | 火 | <短大>後期定期試験結果・追再試験発表 |
| 25 | 月 | <短大>後期追再試験 (28日まで)  |

### 3月

|    |   |                          |
|----|---|--------------------------|
| 3  | 日 | <大学・短大>一般入試後期            |
| 18 | 月 | <大学>学位記授与式 卒業祝賀会         |
| 18 | 月 | <短大>第62回学位記授与式 卒業記念パーティー |
| 20 | 水 | 春分の日                     |

### 4月

|    |   |                   |
|----|---|-------------------|
| 3  | 水 | <短大>入学式           |
| 4  | 木 | <大学>入学式           |
| 8  | 月 | <大学・短大>前期授業開始     |
| 29 | 月 | 昭和の日 <大学・短大>祝日授業日 |

## 表紙写真

クレオパトラ Kleopatra

### 「クレオパトラ」

「クレオパトラ」そのバラは、須磨離宮公園の王侯貴族のバラ園にある大噴水の前で、深紅色の大輪の花を威風堂々と咲かせています。ドイツのコルデス社により、1994年に作出されたバラです。

「エジプトはナイルの賜物」とは、ギリシアの歴史家ヘロドトスの言葉です。エジプト文明では、最古の暦のひとつシリウス暦を生み出して、定期的にかかるナイル川の氾濫時期を知り、氾濫後の農地を元通りに再分配するために測量と幾何学が発達したといわれています。人類の歴史は自然災害との戦いであり、共存しながら文明を発展させてきたように思われます。古代エジプトの女王「クレオパトラ」は、絶世の美女であり、またその聡明さでローマの将軍カエサルやアントニウスを魅了したことで知られています。古くは、お風呂を楽しむ、ローズオイルを肌に塗り、時には床に花びらを一面に敷き詰めたともいわれています。最近、化粧品会社の研究で、バラの香り成分にはストレスを緩和する効果があると発表されており、またローズオイルには女性ホルモンのバランスを整える効果があるそうです。クレオパトラがバラを愛したことに、うなずけるような気がします。



神戸市立須磨離宮公園 園長 山村 治

## 編集後記

立春が過ぎたとはいえ、まだまだ寒い日が続いています。「早春賦」の「春は名みの風の寒さや」という歌詞がぴったりの季節に神女広報CROSSROADS vol.15をお届けします。

今回の広報誌作成にも、学外、学内の多くの皆様のご支援、ご協力をいただきました。深く感謝を申し上げます。

屋内に引きこもる生活になりやすい季節ですが、晴れた日には冬の澄んだ空気のおかげで高い所から遠方まで見渡すことができ爽快な気分にも浸ることができます。

平成25年も一ヶ月以上過ぎましたが、広報誌の編集が終わって思い出すのは年始に話題になった今年の干支のことです。「巳」は復活と再生を連想させ、新たな旅立ちや再スタートをするには適した年のような気がします。学園広報担当として様々な角度から情報を集めて、毎回新しい視点をもって広報誌を作成することを心がけなければと思っています。

また、今年は伊勢神宮の20年に一度の式年遷宮、出雲大社の60年に一度の修造遷宮の年にあたるそうです。再出発という言葉がふさわしい年になり、遅々として進まなかった東日本大震災からの復興も今年は、一気に進むことを願っております。

(M.O.)

## 神女広報 CROSSROADS vol.15 2013年2月発行

編集・発行 学校法人吉学学園 学園情報センター 学園広報担当  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2  
TEL:078-303-4790 FAX:078-303-4713  
ホームページアドレス <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>  
E-メールアドレス [gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp](mailto:gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp)

印刷 交友印刷株式会社

※「神女広報」へのご意見、お問い合わせなどお寄せください。



学校法人行吉学園



神戸女子大学



神戸女子大学大学院



神戸女子短期大学



神戸女子大学教育センター

vol.15  
2013 Winter

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ

神女広報

CROSSROADS